

## 研究ノート

## アメリカ人エリートの意識\*

川久保 美智子\*\*

## 1 はじめに

この調査は15年前に実施されたアメリカ人の意識調査<sup>1)</sup>と比較してどのように変化したかを調べるために行なわれた。15年といえば社会は大きく変化しているが意識の面ではどうであろうか。15年前とどのような面が変化し、どのような面は変化していないのかを調べるために実施した。さらに日本人、中国人との意識比較も行なう目的である<sup>2)</sup>。しかし、本論文ではとりあえずアメリカ人の意識に関してのみ報告することにする。

本調査は1997年夏に実施されたアメリカ人、それも教育程度の高いエリート達の意識を調べたものである。同時に日本でも同じ調査を実施したが、アメリカ人の場合アンケートを英語に翻訳し、Academy of International Managementの1996年の名簿より500人を選出した。学会の名簿なので学者が多いが、企業に関係のある者だけを選出した。さらに外国企業名簿(1995年)<sup>3)</sup>から250社を選出し、合計750人サンプリングしアンケートを郵送した。返信住所を記入した返信用封筒は同封したが、切手は貼ってない。その為返送されたアンケートは空航便や船便があり回収される期間が長引いた。また、アメリカ人は移動が激しいので住所不明で返送されたものもかなりあったが、記入して返送された有効回答は220票である(回収率29.3%)。この種の調査としては平均的な回収率である。学会の名簿なので高学歴者が多

いのは当然であるが、大学所属者は避けて企業関係者にのみアンケートを送付したのだが返送されたアンケートを見ると教授達も含まれている。

## 2 結果

## 1) 個人属性

まず最初にサンプルの個人属性についてのデータを報告する。年齢は30歳以下が20.9%、31-40歳が31.4%で最も多い。41-50歳は26.8%、51-60歳が14.5%、60歳以上が4.5%で平均年齢は40.67歳である。

性別は男性57.7%、女性41.8%である。教育程度は18年以上、すなわち大学院2年修了以上が55.5%を占める。その中の多くが博士号保持者である。男女別にみると、高卒は女性の方が多く、大卒は男性の方が多い。18年以上の学歴がある者は男性63.8%に対し、女性43.5%と男性の方が高学歴者が多い。次に多いのは16年、すなわち大卒以上が20.0%である。高卒・短大卒はそれぞれ7.7%である。

職業は教授・助教授などの教職が21.8%、マネージャーが27.3%、管理職が10.9%、ディレクターが6.4%、会計士が7.7%である。役職についている者は約半分の47.3%である。職業に男女差はほとんどみられないが、マネージャーには女性の方が多く、教授と会社の管理職には男性の方が多い。しかし、女性の41.3%が管理職についているとはさすがアメリカである。もちろんこれは学

\*キーワード：アメリカ人・エリート・意識

\*\*関西学院大学社会学部教授

- 1) 川久保美智子『日米社員の意識比較』講談社、1991年。
- 2) 川久保美智子『日中社員の意識比較』多賀出版、1997年。
- 3) 日本経済新聞社『在日外国企業名簿』1995年。